

# 2025年3月期 第1四半期 決算概要

2024年8月8日

テルモ株式会社

Chief Financial Officer

萩本 仁



## おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

# ハイライト

## ■ 売上収益

- 四半期として過去最高
- 全カンパニーで需要が継続、為替も寄与し全社で+19.9%の伸長

## ■ 利益

- 営業利益・当期利益ともに、四半期として過去最高
- 適切な費用管理により売上成長を上回る伸長

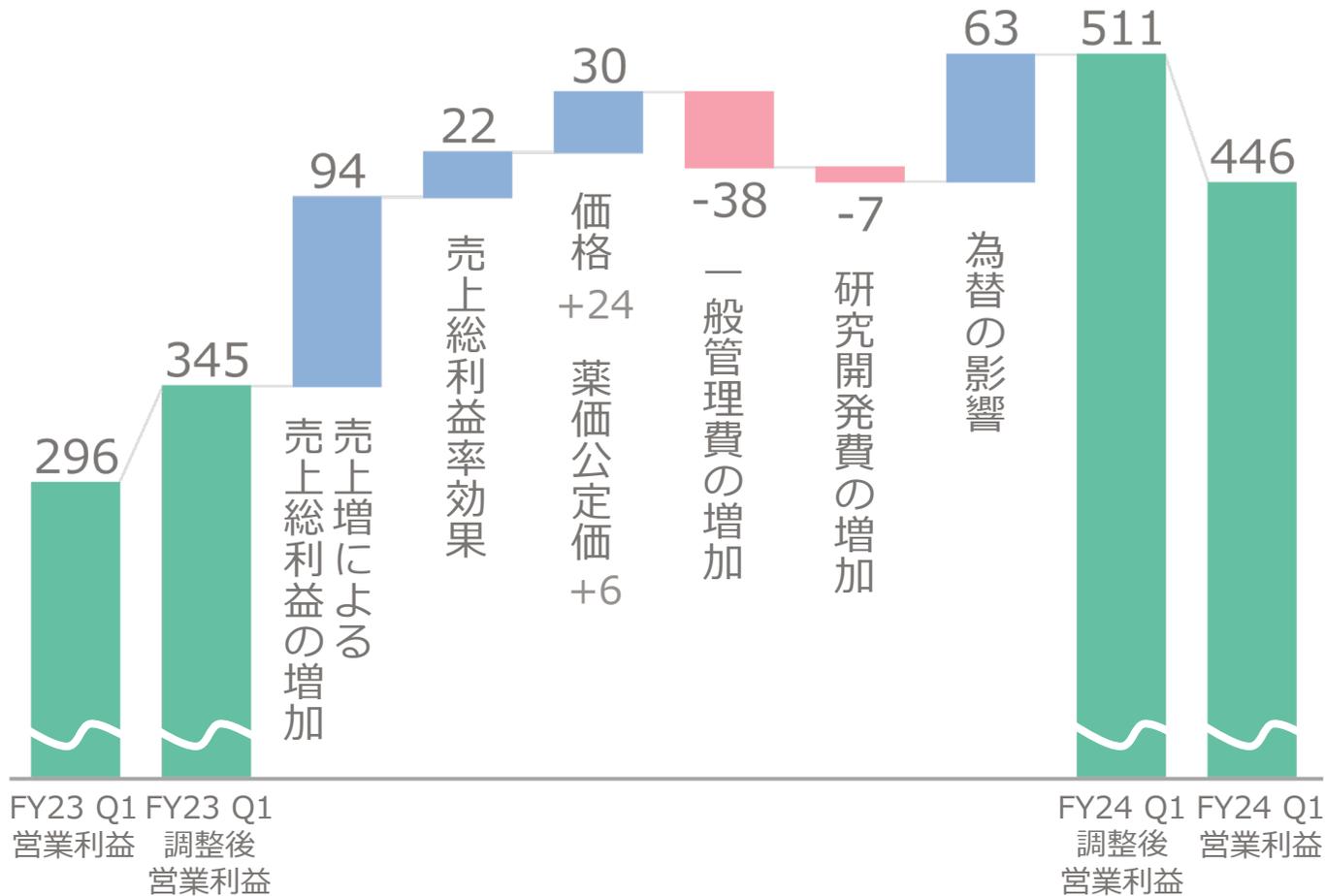
# P&L実績

- 売上収益：価格政策の効果や、一時的要因もあり全カンパニーで好調な伸長
- 営業利益：売上増の寄与と、適切な費用管理による利益率の改善

金額（億円）	FY23 Q1	FY24 Q1	増減率	為替除く増減率
売上収益	2,153	2,582	20%	10%
売上総利益 (%)	1,098 (51.0%)	1,376 (53.3%)	25%	12%
一般管理費 (%)	651 (30.2%)	748 (29.0%)	15%	5%
研究開発費 (%)	154 (7.2%)	174 (6.7%)	13%	5%
その他収益費用	3	-8	-	-
営業利益 (%)	296 (13.8%)	446 (17.3%)	51%	24%
調整後営業利益 (%)	345 (16.0%)	511 (19.8%)	48%	24%
税引前利益 (%)	298 (13.8%)	456 (17.7%)	53%	
当期利益 (%)	225 (10.5%)	339 (13.1%)	50%	
期中平均レート(USD/EUR)	137円/150円	156円/168円		

# 営業利益増減分析（Q1）：需要継続による売上増が貢献

(億円)



売上増による売上総利益の増加：  
TIS・ニューロを中心に心臓血管が牽引

売上総利益率効果：  
インフレ影響の緩和とコストダウン効果

価格：  
国内外での価格政策の効果

一般管理費の増加：  
事業拡大に伴う増加、計画通りに推移

為替の影響：  
フロー +38億円  
ストック +25億円<sup>※</sup>

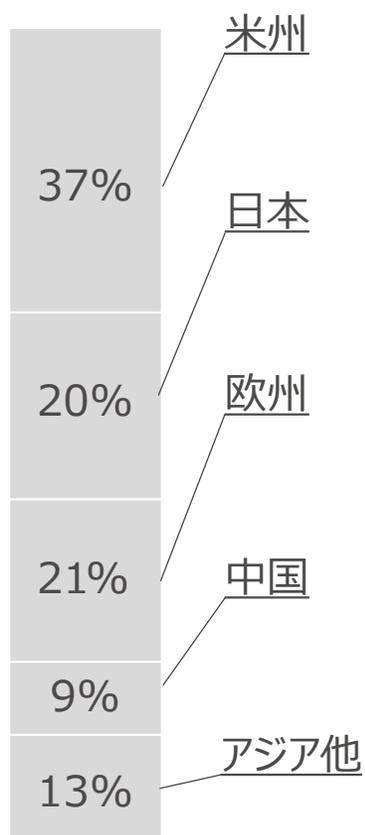
<sup>※</sup>在庫の未実現利益消去に使用する為替レート変更による影響+22億円を含む



# 地域別売上収益：一過性の需要も寄与し、全地域で順調に進捗

(C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルケアソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー  
TIS: 血管内治療システム、ニューロ: ニューロバスキュラー、CV: カーディオバスキュラー、HCS: ホスピタルケアソリューション、LCS: ライフケアソリューション、PS: ファーマシューティカルソリューション)

FY24 Q1  
地域構成比



売上収益 (億円)	FY24 Q1累計 増減率	コメント
FY22 662 FY23 740 FY24 <b>959</b>	30% (15%)	全カンパニーが為替影響を除いても二桁伸長。C&Vは一時要因含むもTIS・ニューロ・血管が、TBCTでは血液センター向けビジネスが牽引
499 475 <b>528</b>	11%	TMCSが大幅に伸長。HCSは価格政策が貢献、PSも計画通り進捗
386 444 <b>541</b>	22% (8%)	C&Vではニューロ・血管が為替影響を除いても二桁伸長、TBCTでは血液センター向けビジネス・アフレスス治療が好調
194 200 <b>230</b>	15% (5%)	C&Vが牽引。ニューロはFY23Q1に代理店の在庫調整による減収であったため大幅伸長。TISはVBP開始による買い控えの反動もあり計画を上回る
233 294 <b>323</b>	10% (0%)	FY23Q1に好調であった血液センター向けビジネスは減収も、C&Vはカーディオロジーが、TMCSではPSが為替影響を除いても二桁伸長し牽引

( ) 内は為替影響除く

# C&V：欧米が牽引し売上・利益ともに計画を上回る

(C&V: 心臓血管、TIS: 血管内治療システム、ニューロ: ニューロバスキュラー、CV: カーディオバスキュラー)

(億円)

	Q1			コメント	Q1 売上増減
売上収益	( ) 内は為替影響除く				
	1,168	1,306	1,567 +20% (+8%)	<p>TIS : 北米で一部アクセス製品の供給問題が解消したことにより、為替を除いても二桁伸長で牽引</p> <p>ニューロ : 需要継続に加え、FY23Q1の一時的な減収もあり、グローバル各地域で為替影響を除いても二桁伸長</p> <p>CV : 装置需要が一巡するも、北米が牽引</p>	+148
調整後 営業利益	280	269	372 +38% (+13%)	<p>血管 : 北米・欧州が牽引。ステントグラフト・人工血管の好調な販売拡大に加え、ハイブリッド製品も順調に展開</p>	+35
	-----				
利益	<p>利益 : 一時的要因含む増収と収益改善策の効果に加え、販管費のコントロールが順調に進捗し増益</p>				
	FY22	FY23	FY24		
利益率	24%	21%	24%		

# TMCS：一時的要因による売上増を含むも、価格政策の効果で増収増益

(TMCS: メディカルケアソリューションズ)

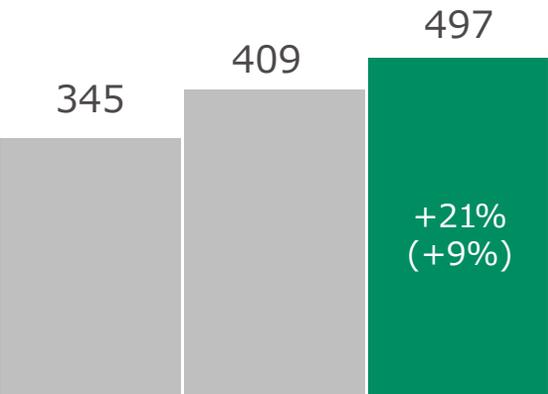
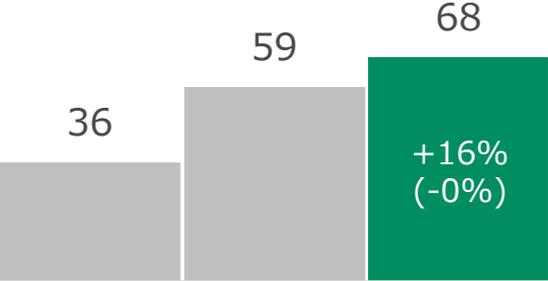
(億円)

	Q1			コメント	Q1 売上増減
売上収益	( ) 内は為替影響除く				
	460	437	518 +18% (+15%)	HCS ホスピタルケア ソリューション : 日本では、FY23下期に実施の価格政策の効果と今年度の薬価改定、輸液セット・シリンジの好調により増収。海外は、北米での一時的な需要拡大により売上が好調	+46
調整後 営業利益			65 +131% (+145%)	LCS ライフケア ソリューション : CGM（持続血糖測定器）の販売代理店契約の終了に伴う売上減少	-2
	45	28		PS ファーマシューティカル ソリューション : 日本におけるCDMO事業は計画通り進捗、FY23Q1は納期の期ずれによる減収もあり大幅増収。海外では北米のPLAJEXが好調	+37
利益率				利益 : 増収と価格政策の効果により増益。FY23下期に実施した価格の見直しは、今年度上期にわたり効果を見込む	
	FY22	FY23	FY24		
	10%	6%	13%		

# TBCT：血液センター向けビジネス好調による売上拡大

(TBCT: 血液・細胞テクノロジー)

(億円)

	Q1	コメント	Q1 売上増減
売上収益	( ) 内は為替影響除く		
	 <p>345      409      497</p> <p>+21% (+9%)</p>	<p>血液センター：北米・欧州で成分採血システムおよび全血採血関連製品の売上が好調。Rika（原料血漿採取システム）も順調に展開</p> <p>アフレス治療：北米・欧州を中心に、細胞・遺伝子治療に伴う細胞採取の需要拡大により好調な売上</p> <p>細胞処理：細胞処理システムは競争激化により低迷</p>	+65
調整後 営業利益	 <p>36      59      68</p> <p>+16% (-0%)</p>	<p>利益：為替影響を除く利益は前年同期と同水準。利益率は14%を維持</p>	+21
利益率			+1
	FY22	FY23	FY24
	10%	14%	14%

# 現下の環境認識

変化なし



## ファンダメンタルズ

総じて健全  
需要・成長ポテンシャルは引き続き良好

不安定



## インフレ

インフレ緩和傾向も注視が必要  
(原材料、輸送費、エネルギー等)

不安定



## 為替変動

依然として先行き不透明

加速



## 自社戦略

GS26の確実な実行と、  
大胆なプラスα (ポートフォリオ最適化) の実施

# 参考資料

# P&L (四半期推移)

(億円)

	FY23 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)
売上収益	2,153	2,286	2,391	2,389	2,582
売上総利益	1,098 (51.0%)	1,185 (51.8%)	1,266 (52.9%)	1,243 (52.0%)	1,376 (53.3%)
一般管理費	651 (30.2%)	664 (29.0%)	707 (29.6%)	737 (30.9%)	748 (29.0%)
研究開発費	154 (7.2%)	164 (7.2%)	173 (7.3%)	199 (8.3%)	174 (6.7%)
その他収益費用	3	12	5	39	-8
営業利益	296 (13.8%)	368 (16.1%)	390 (16.3%)	346 (14.5%)	446 (17.3%)
調整後営業利益	345 (16.0%)	411 (18.0%)	441 (18.5%)	371 (15.5%)	511 (19.8%)

四半期	USD	137円	145円	148円	149円	156円
平均レート	EUR	150円	157円	159円	161円	168円

# 販管費（四半期推移）

(億円)

		FY23 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)
人件費		336	349	371	373	398
販促費		49	44	54	54	52
物流費		47	46	49	51	51
償却費		58	61	65	66	70
その他		161	164	168	192	178
一般管理費 (売上比率)		651 (30.2%)	664 (29.0%)	707 (29.6%)	737 (30.9%)	748 (29.0%)
研究開発費 (売上比率)		154 (7.2%)	164 (7.2%)	173 (7.3%)	199 (8.3%)	174 (6.7%)
合計 (売上比率)		805 (37.4%)	828 (36.2%)	881 (36.8%)	937 (39.2%)	922 (35.7%)
四半期 平均レート	USD	137円	145円	148円	149円	156円
	EUR	150円	157円	159円	161円	168円

# 販管費（前年同期比）

（億円）

	FY23 Q1	FY24 Q1	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	336	398	62	18%	7%
販促費	49	52	3	6%	-2%
物流費	47	51	4	6%	-2%
償却費	58	70	12	21%	9%
その他	161	178	17	10%	2%
一般管理費計	651	748	97	15%	5%
（売上比率）	（30.2%）	（29.0%）			
研究開発費	154	174	14	13%	5%
（売上比率）	（7.2%）	（6.7%）			
販管費合計	805	922	117	15%	5%
（売上比率）	（37.4%）	（35.7%）			

# 調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY23 Q1	FY24 Q1
調整後営業利益	345	511
調整① 買収無形資産の償却費	-46	-56
調整② 一時的な損益	-2	-9
営業利益	296	446

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の主な項目	FY23 Q1	FY24 Q1
事業再編費用	-2	-11
その他	-	2

## 設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

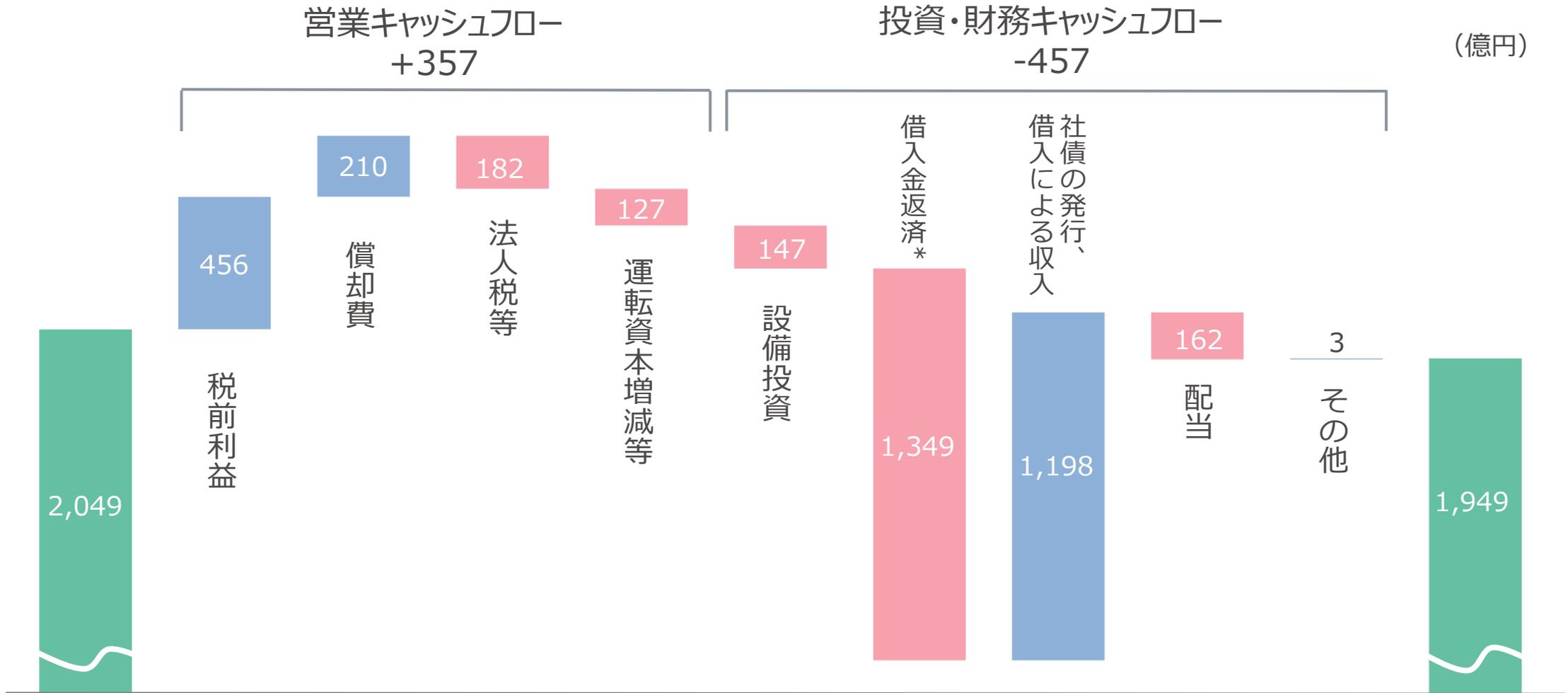
	FY21	FY22	FY23	FY24Q1	FY24予想
設備投資	692	758	784	147	930
償却費	532	635	702	192	770
買収無形償却費	161	188	200	56	200
それ以外	371	447	502	136	570

設備投資は、建設仮勘定計上ベース・リース含まず、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

■ FY24Q1実績（147億円）：CDMO（開発製造受託）等生産体制強化のため甲府工場内の新棟建設他、TISおよび血液・細胞テクノロジーの増産設備、原料血漿採取関連、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

	FY21	FY22	FY23	FY24Q1	FY24予想
研究開発費	518	616	691	174	715

# キャッシュフロー (Q1)



FY23末  
現預金残高

設備投資は建仮計上ベース  
期末現預金残高はB/Sの「現金及び現金同等物」と整合

\*デリバティブ決済考慮後

FY24Q1末  
現預金残高

# 為替感応度

1円の円安に対する年間影響額（フロー） （億円）

	USD	EUR	中国元
売上収益	25	11	39
調整後営業利益	1	5	23

1円の円安に対する影響額（ストック）

	USD	EUR	中国元
調整後営業利益	-2.5	-0.6	-2.0

